

## 朱湯山寛徳院 長泉寺史

ちようせん

別府史談会（元副会長）

（故）安部 巖

朱湯山寛徳院長泉寺、古くは赤湯山寛徳院長泉寺

別府市大字野田四組（字御手洗七六九番地）にある（元野田村）。寺地は柴石川に沿う温泉湧出の中央部に当たり、付近には血の池地獄、龍巻地獄などがある。宗派は浄土宗知恩院系、本尊は仁聞にんもんの作と伝える木造薬師如来の座像である。

寺院の創建は古く、寛徳二年（一〇四五）と伝えられている。創建当時の状況について、当寺に伝わる「長泉寺縁起」には「寛徳二年、後朱雀天皇の時皇太子親仁親王が重病にかかり、柴石温泉に入湯。七日七夜の後、平癒へいゆした。その後、親仁親王は後冷泉天皇となった。そのとき天皇は宇留島俊久、藤原員久かずひさに命じ百濟くだら様式の七堂伽藍がらんを柴石一本杉の地所に建立、朱湯山寛徳院長泉寺と名付けた」と云うことが書かれている。

また、『豊陽故事談』には「赤湯山寛徳院長泉寺、在

速見郡内竈在野田村也。親仁親王所創以仁海僧止為開山鼻祖。蓋寛徳二年所建也。寛徳二年正月、後朱雀天皇崩御。依之親仁親王受禪、此年勅速見郡司、創長泉寺。此處有廢寺、曰羽室山多恩寺、本尊薬師佛仁聞之作也。以此佛為長泉寺之本尊」と記されている。また『葦澤豊後風土記』赤湯泉の条には、「在郡西北。今口石垣荘野田……（中略）……其旁有寺、曰赤湯山長泉寺」とある。

その後時代が下がり、明治八年に編纂された『豊後国速見郡村誌』野田村の條には「後朱雀天皇御守、寛徳年親王子病テ薬師佛ニ祈ル。夢ニ一老僧ヲ見ル。曰ク、我カ豊後州速見郡内竈在ニ垂迹すいじやくスル薬師佛アリ、君病重シ。我垂迹地ノ温泉ニ浴ヘシト、太子臨浴病全治、因テ寛徳年間勅アリ、寛徳院ト号ス」（後略）と記されている。「別府市寺院明細帳」にも『速見郡村誌』と同様のことが書かれている。

創建の時期については若干の相違が見られるが、古くから在ったことは相違ない（創建当時の状況については、さらに検討が必要であろう）。寺院が創建されてから後の状況はしばらく不明である。ところが、「縁起」には

「天正年間大友氏の乱に伽藍・宝物皆灰燼に帰せしも、薬師如来の尊像のみは、不思議や火災をのがれ免れ給ひしかば、里人之を守りて姫山に小々(ささ)やかなる草屋を安置し、いつぎ、かしづき奉る」と記されている。「寺院明細帳」には「慶長年間兵火ニ罹り、堂宇俛ス」とあることから、室町時代末期、戦国動乱の余波を受けて廃滅したものとみられる。

江戸時代の再建は享保十二年(一七二七)になっておこなわれた。再建について『速見郡村誌』や「寺院明細帳」には「享保十二年僧白勇、更ニ再興シ長泉寺ト称ス」と記されている。享保十二年(一七二七)と云えば、亀川にある里谷山具足院信行寺の全盛時代である。信行寺は浄土宗で新たに再建された長泉寺も浄土宗である。何か信行寺との間に深い関係があつたものとみられる。長泉寺の再興は、石垣荘井田郷の蓮光庵中興と似通つた点がある。別府地方でこの時期は、知恩院を本山とする浄土宗の寺院が隆盛を極めていた時期だったのである。先の『郡村誌』や「寺院明細帳」に「信行寺系」とあるのは、当時の事情を物語るものであろう。

このとき、寺地は野田村八十浪であつた。現地は姫山



百万遍御札(江戸時代) 嘉永元年戊申五月下旬

の北側斜面を下つたところにあり、寺院の墓地は姫山に定められた。墓地の東方斜面には、古くから巨石信仰の対象となつた「姫山メンヒル」があり、山頂には南面して御霊社がある。

再建以来の遺物・遺構・資料等は不幸にして散逸したり、消失したりして多くは残されていない。江戸時代のものとしては、百万遍御札版木、大乘妙典塔、石殿、五輪塔(二十基)、仏法大師像などが残されている。大乘妙典塔は、現長泉寺境内にあり、宝永三年(一七〇六)のものともみられる。(おわり)



要法正月旧年例  
「お札」しているお祭り